

荒れ野の福音

マルコによる福音 1:12-15

(そのとき、) “霊”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

説教

マルコの福音書は簡潔です。きょうの誘惑物語もマタイでは11節(4:1-13) ルカでは13節(4:1-13)も書いてあるのにマルコではたったの2節です。マルコ福音が短いのは誘惑の内容にふれていないからです。マタイ・ルカは悪魔の誘惑とイエスの問答について詳しく書いてありますがマルコでは「サタンから誘惑を受けられた」と記録されるだけです。マルコの視点で見ると誘惑の中味に興味がないようです。しかし、マタイ・ルカには記録されていないけれど、マルコだけに書いてあることがあります。

その間、野獣と一緒におられた(マコ 1:13)

マルコは記録しているのに、マタイ・ルカでは野獣のはなしは出てきません。荒れ野に野獣がいてもあたりまえだからわざわざ書かなかったのでしょうか。それともたんなる見落としでしょうか。

マルコ福音書が伝える荒れ野は神の領域だともいえます。霊によらなければ行くことができない場所でサタンはいるは、野獣はいるは、そのうえ天使もいるところが荒れ野です。人間界とはまるで別次元で、ヒトから見れば魔界のようでもあります。

しかし、荒れ野=神の領域だと仮定すると、始めの人アダムがエデンの園から追放されて以来、荒れ野に行くことができたのは神に選ばれた預言者だけ

です。

“霊”はイエスを荒野に送り出した。（マコ 1:12）

イエスは選ばれて荒野に送り出され、荒野からでて福音を告げました。逆にいえば、福音は荒野で神のことばを受けた者だけが告げることができるということになります。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」（マコ 1:15）

わたしたちが荒野から聞こえてくる福音を聞き分けることができるように整えてください。
